〒108-8414 東京都港区芝5丁目26番20号
電話 03-3456-2051 ファクシミリ 03-3456-2058

社団法人 日本建築学会
ARCHITECTURAL INSTITUTE OF JAPAN

26-20, Shiba 5-chome, Minato-ku, Tokyo 108-8414
Phone 03-3456-2051 Facsimile 03-3456-2058

2007年11月14日

旧日本相互銀行本店についての見解

社団法人　日本建築学会関東支部
建築歴史・意匠専門研究委員会
主査　大橋竜太

東京都中央区八重洲の呉服橋交差点に面して建つ旧日本相互銀行本店（現・三井住友銀行呉服橋支店）は、建築家・前川國男の設計と清水建設株式会社の施工で建設された日本で最初の本格的な近代的オフィスビルである。工事着工は戦後の資材統制が解除されて間もない1950年10月で、1952年7月の竣工までに21箇月の工事期間を要している。建物の軒高は当時の上限である31mだが、階高を低く抑えることで地上10階建て（地下2階）を実現し、敷地面積236.58坪・建築面積212,81坪に対して延床面積2,187.46坪（容積率925%）を獲得している。建物の用途は、地下2階を機械室、地下1階を金庫室・喫茶室・駐車場とし、地上部分は1階が大営業室で3階から7階が執務空間、8階・9階にはオーディトリウム（338席）が設けられた。

この建物の建築史的価値は、以下に詳述するように、戦後まもない時期の日本において、設計・施工のあらゆる面で最大限に近代化を試みて実現した「日本で最初の本格的な近代的オフィスビル」という点にある。

・日本で最初の近代的オフィスビルとしての歴史的価値

前川は日本相互銀行本店を設計するにあたり、従来の銀行本店のイメージを離れ、全く新しい「近代的オフィスビル」としてこの建物を設計した。戦前の銀行（および生命保険会社）本店では、中央に吹抜の広い営業室を設け、その周囲に執務空間を配する形式が主流であったが、ここでは1階部分をほぼ全て銀行本店として必要な広い営業室に充て、同時にオフィスビルとして必要な執務空間をできるだけ広く確保する方法として、下層部（地下2階〜地上2階）を10本の太い柱のみで支える鉄筋コンクリート構造の大架構とし、その上に純粋な鉄骨構造による徹底的に軽量化した高層部（3階〜10階）を載せるという構造形式を採用した。これによって旧日本相互技能の容積率は925%となり、軒高が同じ31mの明治生命館（容積率280%）に比べ、床面積が格段に増加した。また、戦前の鉄骨鉄筋コンクリート造の高層建築では耐震壁が重視されたためフレキシブルな広いオフィス空間を作ることは不可能であったが、ここでは高層部を鉄骨造として徹底的に軽量化することで、建物全体としての耐震性を向上させるとともに（建物の重心は1階床レベルあたりになる）耐震壁のない広いフレキシブルなオフィス空間を作り出すことに成功している。

この建物の最大の特徴は、鉄骨構造による高層部の徹底的な軽量化と、高精度な作業を必要とする外壁のカーテンウォール工法を日本で最初に実施した点にある。現在の高層オフィスビ